

小さな声で 言いましょう

なまえ)

会話文には、二つの種類があります。

(1) 相手に 話しかけている 会話文。

(2) ひとりごとの会話文。

会話文を 音読する ときは、二つを 読みわけることが 大切です。

ここでは、ひとりごとの 会話文の練習をします。

小さな 声で そつと、つぶやいて ささやいて 読みましょう。

(1) 「あたしも、あんな すてきな ぼうしが ほしいなあ。」

(2) 「お母さん、おそいなあ。いつもは、おそくとも

六時には 家に 帰ってくるのになあ。」

(3) 「おや、あそこに へんなものが おちているぞ。
なんだろう。あれは？」

(4) 「しまった。そろばんじゅくに ふでばこを わすれてきてしまった。」

(5) 「ははあん、そうか。

やっぱり こうすれば よかったんだ。」

(6) 「へんな、いやな におい！ どこから におってくるのかしら。」

(7) 「あそこに たくさんの人 が 集まっているぞ。なんで 集まって
いるのかなあ。」

(8) 「おや、何だろう、あれは？

あそこに へんなものが ぶらさがっているぞ。」

(9) 「ははあん、あいつ、わしの 話を 聞いて いなかったんだな。」

(10) 「こんな 寒い 日に、どうして はやおき しなきやあ ならないの。
はやおき なんて、いやだなあ。」

)

